

第51回 令和5年

新潟県指定無形民俗文化財

三条かぐら鑑賞会

日時 10月1日（日）午後1時開演

会場 三条市中央公民館大ホール



主 催 三条市・三条神楽保存会

後 援 新潟県、新潟日報社、
株式会社三條新聞社、NCT、
ケンオー・ドットコム合同会社

プ ロ グ ラ ム

- | | | | |
|---|-----------|------------|---------|
| 1 | 開会のことば | 三条神楽保存会会長 | 五十嵐 祐士 |
| 2 | 主催者あいさつ | 三条市長 | 滝沢 亮 |
| 3 | かぐらの演舞 | (解説) 神明宮禰宜 | 三上 正行 |
| | (1) 先稚児の舞 | 一ノ木戸 | 神 明 宮 |
| | (2) 宮清の舞 | 三 条 | 八 幡 宮 |
| | (3) 羽返の舞 | 田 島 | 諏 訪 神 社 |
| | (4) 大鉦の舞 | 保 内 | 小布勢神社 |
| | (5) 鎮護鉦の舞 | 塚 野 目 | 白 山 神 社 |
| | (6) 悪魔祓の舞 | 田 島 | 諏 訪 神 社 |
| | (7) 五穀捧の舞 | 一ノ木戸 | 神 明 宮 |
| | (8) 花献の舞 | 保 内 | 小布勢神社 |
| | (9) 五穀撒の舞 | 大 崎 | 中 山 神 社 |
| 4 | 閉会のことば | 三条神楽保存会副会長 | 高野 久昭 |

三条神楽が見られる日と場所（奉納日程）

八 幡 宮 （三条市八幡町 12 番 18 号）

春季本祭	5 月 1 6 日	午後	秋季本祭	9 月 1 5 日	午後
------	-----------	----	------	-----------	----

神 明 宮 （三条市神明町 3 番 9 号）

春季宵宮	4 月 2 8 日	夜	春季本祭	4 月 2 9 日	午後、夜
------	-----------	---	------	-----------	------

秋季宵宮	9 月 2 2 日	夜	秋季本祭	9 月 2 3 日	午後、夜
------	-----------	---	------	-----------	------

献灯祭	1 月 1 4 日	夜
-----	-----------	---

諏 訪 神 社 （三条市田島二丁目 11 番 9 号）

春季宵宮	本祭りの前日	夜	春季本祭	4 月第 2 日曜日	午後
------	--------	---	------	------------	----

秋季宵宮	本祭りの前日	夜	秋季本祭	9 月第 2 日曜日	午後
------	--------	---	------	------------	----

白 山 神 社 （三条市塚野目五丁目 16 番 14 号）

春季宵宮	4 月 1 7 日	夜	春季本祭	4 月 1 8 日	午後
------	-----------	---	------	-----------	----

秋季宵宮	本祭りの前日	夜	秋季本祭	9 月最終日曜日	午後
------	--------	---	------	----------	----

中 山 神 社 （三条市西大崎二丁目 23 番 16 号）

春季宵宮	本祭りの前日	夜	春季本祭	4 月第 3 日曜日	午後
------	--------	---	------	------------	----

秋季宵宮	本祭りの前日	夜	秋季本祭	9 月第 3 日曜日	午後
------	--------	---	------	------------	----

小布勢神社 （三条市上保内丙 1288 番地）

春季宵宮	4 月 1 4 日	夜	春季本祭	4 月 1 5 日	午後
------	-----------	---	------	-----------	----

秋季宵宮	本祭りの前日	夜	秋季本祭	敬老の日	午後
------	--------	---	------	------	----

1 さきちご 先稚児の舞

一ノ木戸 神明宮



鎌倉時代の「越天楽今様」を基にした神楽で、白拍子の舞がモデルです。

鈴は三種の神器を表し、季節の天候を表現しています。三条神楽では稚児舞として舞われ、難しい舞であり、太鼓と笛の拍子も長いです。儀式の意味でも重要な神楽です。

2 みやきよ 宮清の舞

三 条 八 幡 宮



あめのこやねのみこと

天児屋根命の神楽として、天の岩戸の変で起こった神話に基づいています。

神々を祓い清めるために、木を抜く動きや祝詞の唱え方を模した動きがあります。舞の顎部分は、祝詞を唱えながら舞っている様子表現しています。

天児屋根命は、天孫降臨で中臣氏の祖となりました。この神楽は主に春日大社で祭られています。

3 はがえし 羽返の舞

田 島 諏訪神社



あまのいわと
天岩戸の神楽として、神々が盛大に賑

やかに踊った様子を表現しています。

稚児舞で、他の舞とは異なり袖を外して踊ります。この特徴は、思金神の命令に基づいたものであり、服も乱れるほど騒々しく踊るという故事に由来しています。また、この舞は唯一、角での所作がなく、同じ舞を4回繰り返します。

4 おおぼこ 大鉾の舞

保 内 小布勢神社



三条神楽は、櫛岩窓の神話を基にして

います。櫛岩窓はあまのいわとわけのかみ天石門別神とも呼ばれる門の神です。しかし、神と舞の関係性には疑問があり、稚児舞の四神の舞には同じ槍を持ち、似た話があるため、混同された可能性があります。

滋賀の近江神楽には似た舞があり、

いざなぎのみこと あめのぬぼこ
伊邪那岐神が天沼矛を使って島を作った神話が基になっていると考えられます。この

神話では、いざなぎ いざなみ伊邪那岐と伊邪那美が新しい国を作るためにドロドロの沼をかき混ぜ、そこに神殿を建てたとされています。この舞でも槍をつき、かき混ぜ、立つ動作が見られます。

5 ちんごほこ 鎮護鉾の舞

塚野目 白山神社



たけみかつちのかみ ふつぬしのかみ

建御雷神と経津主神が国譲りの交渉後に喜びを表し

て舞った神楽で、どちらも強力な武神で信仰を集めてきました。

二神は春日大社や鹿島神宮香取神宮の御祭神であり、刀の神としても知られ、鍛冶場や武道場で崇拝されてきました。舞は正面向き合わせとお互いが見えない対面があり、拍子を外すと全体が崩れるため、非常に難しい神楽です。

6 あくまばらい 悪魔祓の舞

田 島 諏訪神社



ふつぬしのかみ

経津主神の神話を基にした邪気を祓う舞です。経津

主神は天孫降臨に先立って地上に降り、荒ぶる神を鎮めたとされますが、なぜ単独で舞うかは分かりません。

しかし、経津主神は藤原氏の氏神であり、春日大社や香取神宮の御祭神として重要視され、武神としても有名です。舞は踏み締めを意味する前半と、刀を抜いて激しい動きで荒ぶる神を祓う後半に分かれ、神曲と共に舞われる神楽です。

7 ごこくささげ 五穀捧の舞

一ノ木戸 神明 宮



この神楽は収穫終了後に五穀を神々に奉納するために行われるものであり、三条神楽の中でも最も難しい神楽です。

舞は始まると止まることなく一拍子もズレずに行われ、足の歩数と鈴の鳴るタイミングが重要です。舞はお互いがほとんど見えないため、パートナーとの組舞として完璧に行う必要があります。

8 かけん 花献の舞

保 内 小布勢神社



このはなのさくやひめ
木花之佐久夜毘売の神話を基にした稚児

舞で、天孫降臨で降臨したににぎのみこと邇邇芸命の妻の神です。この神は花が咲く様子を象徴し、祈りが込められていますが、同時に嫁いだ

いわながひめ
石長比売を追い返したため、天の神の子孫は短命になったとされています。白拍子の舞がモデルになっているともいわれ、花を生け献上する動きも取り入れられています。

大 崎 中 山 神 社



農夫役の2人と、食べ物之神様である

とようけのおおかみ
豊受大神が五穀の起源を舞います。

鍬（クワ）を持つ農夫が水田を、鎌（カマ）を持つ農夫が田畑をつくる動きを、無言劇で表現します。この無言で表現をする作法を、三条神楽では「遊び」とい

い、基本的に舞人が自由に表現する形になります。鍬は水田のあぜ道を作り、鎌を研ぎ、雑草を刈る等の動きがあり、鎌は田畑を耕し、雑草を刈る等の動きがあります。

それ以外にもいたずらや一服などもあり、汗を相手に浴びせたり、よくできている水田を妬んで荒らしに行ったり、相手の作物を盗んで自分のところに植えたりと、いわゆる人間臭い演出をします。

途中から登場する豊受大神は、基本的には神様の形としては、農夫には見えていない存在としていて、基本的には日照り、雨風といったような自然を表現しています。

農夫2人が最初と最後にお辞儀をするのも、太陽と雨を感謝したものです。豊受大神の動きも、鈴の鏡の部分为天に掲げ、太陽を表現したものや、鈴の玉を振り落として鳴らし、雨を表現した動きがあります。

五穀とは、古事記では稲・麦・粟・大豆・小豆、日本書紀では稲・麦・粟・稗・豆となっています。

また、舞の中盤にはお供物を撒きます。

三 条 神 楽 の 由 来

三条神楽は、出雲神楽系統に属する神楽です。出雲神楽は、岩戸開き神話を中心とし、その他古くから出雲大社に伝わる神事や、神社の縁起を新たに取り入れ演じられた神楽です。その出雲流の神楽が、山陰から北陸を経て三条の地に伝えられたものと考えられます。

江戸時代の文化8年（1811）には、三条（八幡宮）で神楽が舞われていたことが、古記録に残っていることから、その起源はさらに遡るものとみられます。

ふつう5舞か7舞を伝えるものが多いなかで、三条神楽は32舞も保存されていて、たいへん珍しいため、昭和38年3月、県の無形民俗文化財に指定されました。

このようにすぐれた郷土芸能を、広く市民のみなさんから知っていただき、後世に伝えるため、三条市および三条神楽保存会では、後継者の育成に努めています。研修会や講習会などをおして研鑽を重ねる一方、ビデオや映画に収録したり、本にまとめたりして、当市の伝統芸能の保存をすすめています。

新 潟 県 指 定
無形民俗文化財

三条神楽32舞の演目

1 先稚児の舞	9 鳥形の舞	17 天川の舞	25 杵樹の舞
2 宮清の舞	10 羽返の舞	18 奉幣の舞	26 宝剣作の舞
3 悪魔祓の舞	11 岩戸開の舞	19 小弓遊の舞	27 深山錦の舞
4 鎮護鉾の舞	12 地久楽の舞	20 四神の舞	28 神勇の舞
5 久奈戸の舞	13 稲田宮の舞	21 五行の舞	29 五ツ刀の舞
6 五穀撒の舞	14 榊の舞	22 大鉾の舞	30 三座返の舞
7 五穀捧の舞	15 花献の舞	23 天孫降臨の舞	31 宮司舞
8 太平楽の舞	16 福神遊の舞	24 末広の舞	32 乙女舞